

がんばっています!

- No. 47 -

## 人生を変えた 日本の農村の原風景

〜郷里の農業を守る〜

小境農地保全対策委員会

吉賀 久剛さん

### 練馬から飯山へ

東京都の中野区で生まれ、当時は武蔵野の農村風景の残る練馬で育ち、以来

ずっと練馬区に住んでいました。そんな私が飯山に住み始めたのは平成24年の4月からです。飯山の日本の原風景を思わせる景色が気

に入って田畑付き古民家を購入しました。3年後に農家の許可をもらい、5年前に前任者の方が副区長に選出されたのを機に「農地保全対策委員会事務局」という彼が担当していた国の補助事業の仕事を引き継ぐことになりました。最初の一年は前任者から手取り足取り教えていただくことが多く、農地保全(略)の行っている事業内容や目的については、私も含めて知らな

### 農地保全のお仕事

さて、実際の活動についてですが、4月に入り雪消えを待つ区役員のとともに区内農業施設全体を点検して、不具合および必要補修箇所などの検討会を開いて一年の大まかな活動計画の立案を行います。4月の春作業を皮切りに、区民の皆さんと役員が協力して地域の整備が11月まで続きます。作業内容と目的によっては国の補助対象になりませんので、それを活用して共同活動や年末の作業用品の貸与などに役立てています。

他に農地保全で行っている事業としては、遊休農地活用の「景観形成・花壇作

りや蕎麦畑作り」、生態系保全では地区の子どもたちと「蛭観察会」、収穫した蕎麦を使って年末に行われる「蕎麦打ち講習会」などです。11月〜12月にかけては、耕作の終わった農業施設の保全と長寿命化の目的で、補助金を使った補修工事を行います。1月には市へ提出する今年度の事業方向をまとめるという一番大事な大仕事があり、それにかかりきりとなります。

### 次世代へ 癒しの空間を

飯山に住み始めてたかだか10年目の私ですが、私の大好きな飯山の「日本の農村の原風景」がいつまでも続くように、微力ながら協力したいと思っています。そしてこれからも地域の皆さんと力を合わせて、子どもたちや孫の世代へ癒しの空間を提供し続けていきたいと願っています。



【上】 森代表(左)、吉賀さん(右)  
【左】 対策委員会のメンバー 【右】 蕎麦打ち講習会



太田地区農業委員  
宮澤 義仁

## 飯山市農業委員さんの あぜ道だより



岡山地区農業委員  
廣瀬 公一

私は、岡山照岡地区の農業委員の廣瀬公一です。農業委員になって3年目になりました。昨年から年金をもらい始めた66才の、米と野菜を作っている爺です。私の住んでいる西大滝は、どこの地区も同じだと思いますが、若い人は年々少なくなり、農業をしているのは年寄りです。遊休農地が増えて何とか退職をした年寄りです。耕作を続けている状況です。

しかし近ごろ、移住してきて農業をしたり、田舎暮らしを楽しむ人たちが増えてきて、ありがたいことだなあと感じているところです。その中で、岡山地区に7年前から移住をされて、田畑を耕作されている清水さんご夫婦を紹介したいと思います。

2人は7年前から移住をされて農業に取り組み、一昨年より(一社)飯山そば振興研究会に参加されており、今都内で行っている仕事を生かして自分たちで栽培し、打った蕎麦の6次産業化に向けた取り組みを皆さんとともに始めています。今経営している仕事と農業の両方でしばらくは忙しいようですが、いつも2人一緒でとても仲のいいご夫婦です。田舎のくらしと自然を相手にした農業に魅力を感じて、移住してきた2人のような方が、地域の方とずっと永く生活していられるように応援をしていきたいと思っています。



農業委員になり、早2年以上が過ぎました。私の職場でもあります「農事組合法人戸狩サンファーム」をご紹介します。昭和63年3月に設立しまして今年度で34年になります。スタッフは20名(臨時を含む)、水稲播種の時は別に7名来ていただいています(短期)。現在、水田約100haと畑10a強を作付けしています。畑のほとんどはブルーベリーで千曲川直売所に出荷しています。

水稲の圃場は地元太田地区と常盤地区と瑞穂地区の一部です。圃場の大きさは大小さまざまで、水田の枚数は550枚程です。品種はコシヒカリの他に7種類、主にコシヒカリを中心に作付けしています。

密苗(播種時に育苗箱1枚につき50グラム以上多く種籾を入れる)を3年前より枚数を増やしながら行っています。これは省力化と低コスト削減のためです。

田植えの後は、水田の外周作業(除草剤や追肥の散布)・草刈り等です。

大変な作業は草刈りで、約2カ月(6~7月・8~9月の2回)行います。他の地区とは違い水田の畔が多いので、とくに田植え後の草刈は草の丈が長いので、とても大変です。

秋の収穫後は平成6年より毎年、暗渠排水工事を行っています。多い年で20数枚の排水工事を行っていましたが、他の作業もあるため近年は少なくなりました。暗渠排水は単なる水の入排水だけでなく次年度からの作業がスムーズにできるためでもあります。

昨年はコシヒカリ等が倒伏してしまい収穫がとても大変でした。今年は災害のない良い1年でありますよう期待したいです。

### あしあと 5・6月の活動記録

- 5月10日 農業委員会役員会
- 〃 農業委員候補者評価委員会
- 26日 5月農業委員会総会
- 6月10日 農業委員会役員会
- 25日 6月農業委員会総会

### (農地パトロール) 農地利用状況調査を実施します

農業委員会では農地の確保と遊休農地化の防止を目的として、農地の利用状況調査(農地パトロール)を実施します。農地への立ち入りなどにつきまして、ご理解とご協力をお願いします。

■調査の期間 7月から9月まで

